

初秋の果物・梨のヒミツ

福部出身のイラストレーター「伊吹春香さん」の可愛くて、癒されるイラストを紹介しながら梨をご紹介しますね！



イラスト:伊吹春香さん

梨の収穫は早い物で7月頃から始まり店頭にも顔を出しますが、梨の初物を手にして秋の訪れを感じる方も多いのではないのでしょうか。

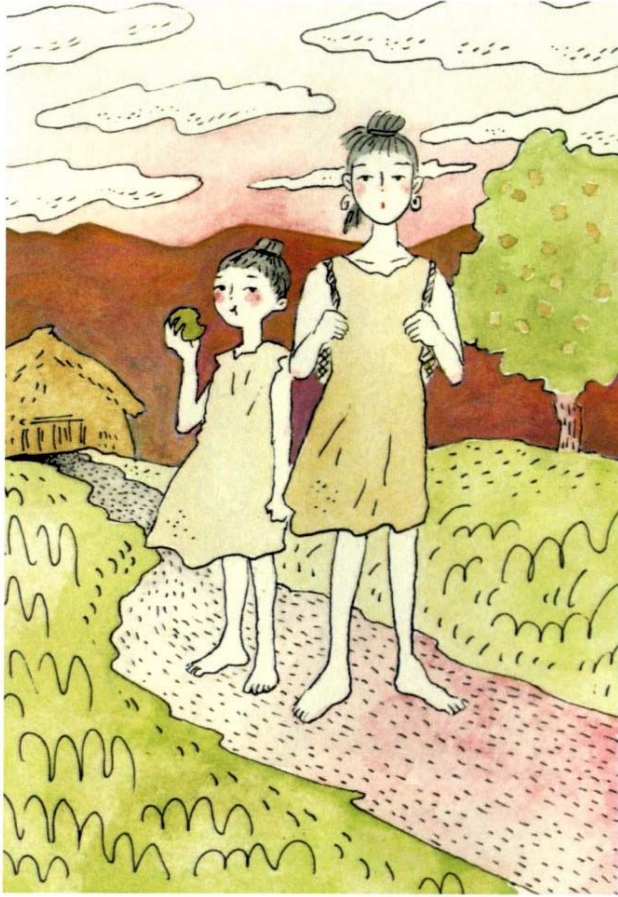
年々外国から新しい果物が紹介される中、「フルーツ」という言葉でイメージされる物の中で決して目立つ存在とは言えません。

梨は日本人との付き合いは古く、弥生時代頃までさかのぼります。

梨と日本の歴史

日本人にとってとてもなじみ深い果物、梨。

弥生時代



梨と日本の歴史は古く、少なくとも弥生時代後期(二千年前)から食べられていたといわれています。弥生時代の人々がどんな風に梨を食べていたのか、考えるとなんだかロマンがありますね。

イラスト:伊吹春香さん

日本人が梨を食べていた痕跡は一番古い証拠は弥生時代後期の登呂遺跡から発掘された梨の種です。

江戸時代



江戸時代には日本独自の「棚栽培法」が確立され、人の手により沢山栽培されていたようです。
甘いものが貴重だった江戸時代には、果物は「水菓子」と呼ばれ大変大事にされたのだとか。

イラスト：伊吹春香さん

梨の本格的な栽培技術の革新が起きたのは江戸時代頃からです。

今では梨の栽培方法として一般的な「棚栽培」もこの頃に考案されました。

梨の木は自然に育つと20メートル以上の高さになってしまいます。

棚栽培は木の高さを抑える他にも「選定のや収穫が容易になる」「葉にまんべんなく

日光が当たり果実がおおきくなる」など多くのメリットがあります。



梨の棚栽培



梨の立ち木自然樹

梨栽培作業の1年

梨はどうやってできるのかな？

〜美味しい梨ができるまで〜



1、人工授粉

春、一斉に白い花が開花。多すぎるつぼみや花を間引いたあと、人工授粉が行われます。一花ずつ丁寧に、手作業で他の品種の花粉をつけます。



2、摘果

初夏、花が小さな実になった頃、質の良い梨に育てるために1房に1つの実だけ残す摘果を行います。



3、袋がけ

実の成長に合わせて小袋、大袋をかけていきます。綺麗な果実を作るため、また病気や害虫を防ぐための大切な作業です。

収穫までの間も、草刈りや、害虫や病気の予防・防除など、常にメンテナンスがかかせません。



4、収穫

品種により、夏から初冬にかけて熟れたものから収穫して行きます。

その後、大きさや品質に分けて選果され、私たちの元にやっと梨が届きます。収穫後も土壌改良や木の剪定などやることはいっぱい。梨農家さんたちが一年をかけて大切に育てた末に、美味しい梨が生まれるのですね。



イラスト：伊吹春香さん

福部出身のイラストレーター「伊吹春香さん」の可愛くて、癒されるイラストが紹介された小冊子の表・裏表紙です。

タイトル: 梨のある暮らし1年



「こちらの冊子は鳥取二十世紀梨記念館なしっこ館で販売中です。

* 1冊 1000円(税別)

他にもたくさんイラストが掲載されていますのでまたご紹介します。